

増設多核種除去設備

サンプリングシンクから堰内への システム水漏えい事象について

2017年6月29日

東京電力ホールディングス株式会社

概要及び時系列

1

■ 概要

- 平成29年6月12日、増設多核種除去設備（増設ALPS）建屋内のサンプリングシンクからシステム水の漏えい及び漏えい水による水溜り（範囲：6m×6m×1mm）を確認。
- 水溜りは増設多核種除去装置建屋の堰内に留まっており、建屋外への流出はない。
- 平成29年6月11日、委託運転員によるCaイオン濃度測定の際にサンプリング元弁F1721Cを閉め忘れたこと、およびサンプリング弁のシートパスのため滴下が継続しサンプリングシンクから漏えいに至ったものと推定。

■ 時系列

【6月11日】

午前中 委託運転員が増設ALPS（C）Caイオン濃度測定、サンプリング元弁を閉操作を失念（パトロールを10:00～12:00に実施、漏えい確認出来ず）

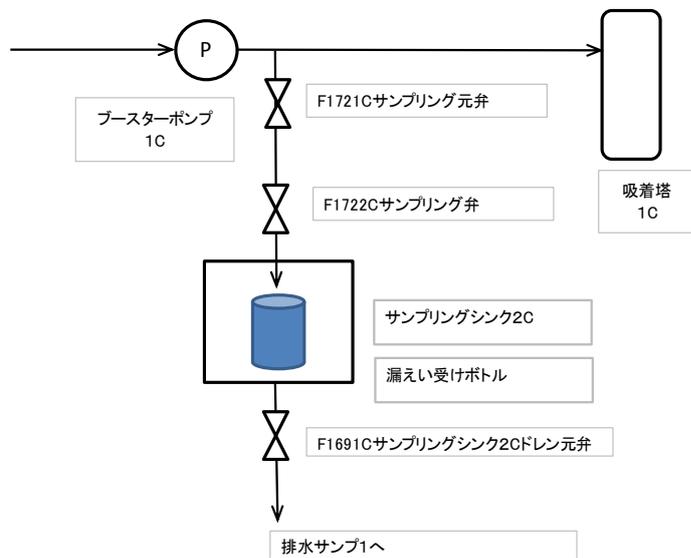
【6月12日】

10：08 当社監理員が増設ALPS（C）サンプリングシンク周りに水溜りを発見し当直に連絡
同時にサンプリング元弁F1721Cの閉操作を実施し、サンプリング弁からの滴下が
停止したことを確認

12：50 ウェスによる水溜りの拭き取り完了

■ 原因

- ▶ サンプル元弁の開操作を失念、サンプル弁のシートパス※により滴下。（※以前よりMRF発行済み）



■ 今後の対策 (検討中)